

「ポリオと呼吸器障害」

三嶋 理晃 (みしま みちあき)

大阪府済生会野江病院 病院長

1) はじめに：

私は4年前に大阪府済生会野江病院に着任しましたが、京都大学呼吸器内科教授在任中に、日本呼吸器学会理事として、「呼吸不全の患者会」のお世話をさせていただきました。ここには、様々な呼吸器疾患の患者団体が参加されていますが、その中で、ポリオおよびポストポリオ症候群に悩む患者さんの全国組織が「全国ポリオ会連絡会」です。大変よくまとまった活発な会であったと記憶しています。

この度、当時代表をしておられた柴田多恵様から、「ポリオと呼吸器障害」に関して会報に寄稿するようにとのご下命を受けました。誠に光栄です。以下、様々な観点から、最近の話題を記述したいと思います。

2) 呼吸器障害を引き起こす過程：

ポリオ・ウイルスに感染すると1~2%に、横隔神経麻痺や、呼吸中枢障害が発生し、呼吸不全に陥ります。急性期においては、しばしば生命の危機に陥って人工呼吸器の適用になります。しかし、急性期を乗り切っても、ポストポリオ症候群（以下 PPS）に悩まされる患者さんがたくさんおられます。その原因は、「胸郭の変形による肺の圧迫」や、「呼吸筋の筋力低下」による呼吸機能の低下で、高齢になるに従って、呼吸不全に陥る可能性は増大していきます。従来の野生型ウィルスによるポリオ患者はこの60年間、発生していません。しかしその撲滅に大きな役割を果たした幼児に対する生ワクチン接種が、副作用としてポリオを発生させることが大きな社会問題となりました。これに呼応して、2012年に不活性化ワクチンに切り替えられました。しかし、生ワクチン関連のPPSで障害者手帳を取得されている方が300人以上おられ、「全国ポリオ会連絡会」の重要な案件となっています。

3) 呼吸不全に対する治療：

a) 在宅酸素療法 (HOT)：

「低酸素血症」を有する場合が対象となります。最近では、軽量かつ持続時間の長い、携帯型HOTの最新機種が開発されています。以前はこれを装着して外出するのが恥ずかしいという方が多かったのですが、最近では、おしゃれなモデルも発売され、旅

行を楽しむ方もたくさんおられます。

b) 陽圧換気療法：

肺胞性低換気（口からの空気の出し入れがうまくできない）を意味する「高二酸化炭素血症」を有する場合が対象になります。マスクから圧をかけて空気を送り込む「NIPPV（Non-Invasive Positive Pressure Ventilation、非侵襲的陽圧換気法）」を用います。また、PPSの方の多くに、睡眠中に睡眠時無呼吸症候群に陥る方が多くおられます。睡眠中の呼吸抑制・上気道の閉塞が原因です。このような方には「CPAP（Continuous Positive Air Pressure、持続的陽圧換気法）」が有効です。最近のNPPV、CPAPは、患者さんが負担にならないように流量・圧を自動制御するプログラムを組み込んだ最先端の機器が開発されています。

c) 呼吸リハビリテーション：

呼吸不全を改善もしくは進行を抑制するための手段です。歩行訓練や階段昇降訓練、自転車エルゴメーターなどの下肢のトレーニングは「呼吸困難感」を軽減します。また、胸郭の可動域を広げるための訓練は、肺活量を増大する効果が証明されています。さらにリハビリテーションを自宅で楽しみながら持続するための「音楽療法」も普及するようになってきました。

4) 皆様へ：

安静時には症状がなくても、PPSによって呼吸機能が意外に低下していることがあります。運動時に息切れがする、睡眠時間を充分とってもすっきりしない、など、何らかの異常を感じられている方は、早めに、呼吸器の専門機関をお受けになることをお勧めします。また、高血圧、糖尿病など、全身の病気のコントロールも大切で、長寿の秘訣です。「ポリオネットワーク」の皆様のご健祥を祈念申し上げます。